

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291700076		
法人名	社会福祉法人		
事業所名	グループホーム ユーカリ優都びあ		
所在地	千葉県佐倉市青菅1023-6		
自己評価作成日	平成21年12月30日	評価結果市町村受理日	平成22年4月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマンネット・ワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成22年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・1日の活動予定をあまり決めず、利用者の希望を優先している ・施設の目の前にケアガーデンを有し、恵まれた環境にある ・学童保育を併設しており、お子さんとの交流が日常的に行える ・全室南向きの個室で、家具の持ち込みも可能 ・入浴に準天然光明石温泉を採用し、温浴効果を高めている ・リビングは約5メートルの高さから採光を採り入れ、明るい雰囲気。また、床暖房を装備し、真冬でも暖か
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ユーカリが丘の「福祉の街づくり」構想の一角にある。大きな緑の屋根の平屋の玄関を入ると5mの吹き抜けの学童保育施設があり、グループホームの中に入るとゆったりとしたダイニングリビングにはウッドデッキがあり、そこから多目的な広々としたケアガーデンに出ることもできる。居室は日当たりのよい南向きである。「共に認め合い助け合いながら生活する家族・その人の持てる可能性をたたえあい快適な生活と苦楽を共有する家族・地域の方々、子供達(学童保育)との温かなふれあいを大切にす家族」との独自の理念を掲げ、一つ屋根の下で、家族として入居者が少しでも長く自立して生活できるサービスの提供に努めている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を玄関先、事務所に掲示	法人の理念を基にグループホーム独自に3項目の理念を掲げている。ホーム長は、同じ屋根の下で、共に生活する仲間・家族であることを強く意識し、入居者本位のケアサービスを提供できているかを職員と常に話し合い、その実現に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりが感じられるような交流は、出来ていない	町内会に加入できていないが、回覧板や地域新聞でグループホームの存在を知らせている。ボランティアや地域の方が見学させてほしいとの依頼も良くある。	ホーム長は町内会への加入を検討しているとのことであり、加入後は、地域の行事へ積極的に参加すると共に、地域の方々をホームに招く行事なども企画し、入居者が地域の一員として交流できるようにすることを期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践の具体的な方法を、広く地域の方々対象には、行っていない		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	性節ないのサービスの実際を報告。その席上、持ち上がった要望、検討事項については、改善し提供している	1年に1回しか開催できていない。職員体制、学童保育との交流事業計画などの活動報告と意見交換が主であり、家族からは活発な発言があり、サービス改善に役立っている。	運営推進会議の年間予定を組み、メンバーに配布する。行政・地域代表・民生委員等幅広く参加を呼び掛け、外部評価への取り組み等も議題として定期的開催することを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、介護相談員の来訪により、客観的な意見を受け、各職員に注意・喚起を促している	更新申請や請求内容等について市の担当者から良く連絡を頂く、毎月介護相談員にきた頂き、日常生活ぶりやケア内容、入居者の声を聞かせていただき、サービス向上に活かしている。	介護相談員の活動報告会があり、市担当者や受入れ代表者も出席できるとのことであり、ホーム長は今後積極的に参加し、市の担当者とのコンタクトを更に強めて行くとのことである。期待したい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	直接的な身体拘束は、行っていない。空間的な拘束に関しては、安全上の観点から、正面玄関については、施錠・開錠の時間が、ある程度決まっている	管理者も職員も身体拘束に当たる事項については理解しており、直接的な拘束はしていない。過去に外出転倒骨折の事故があったため、玄関を施錠している時間帯がある。ホーム内は学童保育場所も含めて自由に行き来できる。ホーム長は玄関も昼間は施錠しない方向で検討しているとのことである。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の中で、本議題については、職員間で意識の統一を図り、介護にあたっては 1/8		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の議題として、今後必要。具体的な学ぶ機会はない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、書類を確認しながら説明している		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けている。日常的には、家族が来訪時に意見交換している	面会時にご家族から意見を言ってもらいやすい雰囲気作りをしている。入居者の体重増加に対してはマンナン米で対応した。利用料金の自動引き落としの依頼には対応できなかった。「ユーカー優都ピア便り」に居室担当者が写真とお便りを載せて毎月お送りしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員から、運営に関する意見を聞く場は、具体的に設けられていない	トイレ掃除を使用者の少ない夜間に変更するなど職員の提案は良く生かされている。悩みなどを抱え込んでしまわないようにホーム長は個々の職員から直接、話を良く聴くようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事考課を実施		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は、職員に与えている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	具体的なネットワークは構築されていない。施設としては、千葉県グループホーム連絡協議会に入会し、情報のキャッチが出来る体制は整えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、入居前に利用していたサービス事業者、ケアマネ等から事前の情報収集を行い、本人の意向は随時聞き入れながら対応している		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に、家族からの不安、要望は聞き入れ、具体的な方策を提案している		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前の聞き取り段階で、必要なサービスの判断をしている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	対等な関係性を築けるように、提供するばかりでなく、利用者に参加してもらえような場面を作るようにしている		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に利用者本人の様子を手紙により知らせ、現状を把握できるようにしている。面会、外食、外泊に関しては制限せず、遠慮なく家族間の交流が図れるようにしている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	積極的なアプローチはしていない。家族及び、友人・知人から問い合わせがあった場合、特に制限なく面会に応じている	年賀状を見て訪ねてきた友人がいたり、ケアハウスで一緒だった友人が訪ねてきてお互いに懐かしがったり、行きつけの美容院に行く人や、以前に買い物に行っていたスーパーに行く人等、馴染みの場や人との関係を絶えさせない支援がなされている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係構築がスムーズに成されるように、時に応じて職員が橋渡しを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	積極的なアプローチはしていない。家族からの相談には、随時応じている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に沿えるように、ケアの方向性を決めている。また、カンファレンスにおいても、本人の意向に沿って、検討している	センター方式の一部抜粋を活用し、思いや意向を把握している。例えば「私の姿と気持ちシート」「私の心と身体の全体的な関連シート」「私に関わることで私にわからない事シート」「私の支援マップ」「私の暮らし方シート」「私の生活史シート」を用いて、一人ひとりの思いや暮らし方を把握している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に情報収集し、サービスの提供に努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケア記録により、現状把握を行っている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、家族からの聞き取りを行い、ミーティングの場でも意見交換している	アセスメントは月に1回、モニタリングは月に1回行われている。月に1回カンファレンスが行われており、居室担当者が意見、気づきなど話し、職員全員で話し合い介護計画作成に繋げるようにしているが、評価等が具体的に記録されていない例も見受けられる。	新しく赴任した介護計画作成担当者は、介護計画作成システムを活用し、利用者毎のモニタリング・アセスメントを判りやすい帳票で纏め、介護計画作成に活かしたいとしている。この取り組みに期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録への記入。個別の情報に関しては、申し送りファイルを参照している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズのキャッチに努めてはいる。多機能化はしていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各利用者に対する地域資源の把握は出来ていない		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の指定は、家族対応、必要に応じて、受診時に同行し、家族の意向が医師にスムーズに伝わるように支援している	馴染みのかかりつけ医に継続して受診している入居者もいる。必要に応じて受診時同行することもある。協力医希望者は、訪問診療を受け、受診結果はファイルし、又入居者申し送りノートに記入し、全職員が確認共有している。訪問歯科を推奨しているが、強制はしていない。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療の定期的来訪を受けている。希望者のみの受診のため、訪問診療所の看護師への医療相談は、受診者に限定されている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院の医療連携室の担当者との協議の上、現状把握に努め、早期退院の方向を探っている。また、入院時には、介護サマリーを作成、提出し、医療施設への情報提供を行っている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンスで利用者の現状を再確認した上で、家族へ説明、協議の上、他施設への移動をスムーズに行えるようにしている	契約時に「つかまり立ちができなくなった場合」は退去することを説明し、納得して入居して頂いている。その状態になった場合は同法人の老人保健施設や近くの特養等の施設を紹介している。骨折などで一時的に立ち上がれない場合等は受け入れをする。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で行っている。ただ、全職員が実践力を身につけているとは言い難い。緊急時のマニュアルは用意し、有事に備えている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施。全職員が避難方法を習得しているとは言い難い。また、同系列法人施設との協力体制はあるものの、地域との協力関係は希薄	昼間、夜間を想定して、消防署立ち会いのもと、避難訓練を実施している。また通報訓練も行っている。設備には消火器、自動火災報知器、誘導灯、火災報知器、消防用水が備えつけられている。玄関に避難経路が案内されている。防災設備は年2回防災設備会社で点検している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、言葉掛けを行っている	その時によって、敬語、普通語を使い入居者が安心するように努めている。人前でトイレの事を言わないよう、又他人に聞こえないようにし、自尊心を傷つけないようにしている。入浴はタオルをつけて、なるべく同姓介助心がけている。職員が入職時に情報を外部に漏らさない事を契約している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が、自己アピール出来るように、受容的、共感的態度で臨んでいる		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを優先し、なるべく望みを聞き入れるようにしている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを考え、身だしなみを整えるようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理のない範囲で、食事作りや取り分け、配膳などを手伝ってもらっている	食事は食材会社より調達している。メニューも食材会社が作成している。畑で獲れた野菜も食事に用いることがある。食事は職員が中心に作り、入居者は下ごしらえ、配膳、食事の準備等を行っている。行事食もあり、入居者は楽しみにしている。天気の良い日はウッドデッキで食べることもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はカロリー計算されており、あまりにも少ない場合は、捕食の提供を行っている。また、水分表により、チェックを行っている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは実践できていない。就寝前には声掛け、介助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表によるチェックを行っている。各利用者トイレに行きたいサインを見逃さないようにしている	日中おむつはゼロ、夜間は一人である。排泄表によるチェックを行い、各入居者のトイレに行きたいサインを見逃さないようにしている。トイレは定時に誘導するのではなく、各入居者の間隔で声かけ、誘導を行っている。また飲んでいる薬によってトイレの間隔も違うので、その点も配慮するなど排泄の自立支援維持に良く努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や、散歩の声掛けを行っている。水分不足にならないようにしている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく本人の意向に沿って、入浴時間を設定しているが、大体の時間は決まっている。夜間浴を実施	週2回以上入浴出来る。時間帯は入居者の希望する時間帯に入浴できる。同姓介助を心がけている。入浴前には必ず血圧、脈拍、体温を計っている。浴槽には温泉効果のある光明石を入れて、温泉に入っているような気分にする等楽しく入浴できるよう工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に、本人の生活リズムに合わせて支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを個々の利用者ごとに用意。状態の変化については、個別ケア記録、日誌により確認が可能		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の役割分担を提供、レクの実施を行っている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物程度の外出には対応している。普段、外出できない場所に関しては、家族対応	当該事業所の敷地が広く、キッチン・フラワー・プラクティス・フィーリングガーデンがある。この庭で歩行訓練・園芸セラピーを兼ねた散歩を毎日行っている。初詣、季節の花を見に行くことがある。個別の外出援助は家族対応が主である。	日帰り旅行等外出計画を立て、入居者の行きたいところへの外出支援も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向を尊重し、家族了承のうえ、少額の保持は認めている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話により、外部へ電話をかけることは可能。手紙については、職員が代行で投函		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物で、季節を感じる事が出来るようにしている。空調、加湿器、床暖房を使用し、快適に過ごせる工夫をしている	敷地内にグランドゴルフ場があり、入居者が楽しみにしている。リビングは日当たりもよく、気持ちが良い。吹き抜けがありはだし窓もあり、空気の流れも良い。リビングには行事で行った物が飾られており、季節感もある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内のソファや、ユニット畳を活用。完全に独りになれる場所は、居室になる		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に持ち込むものは、使い慣れたものを用意してもらるようにしているが、ベッドなどの家具は新規に購入してくることが多い	全室南向きの日当たりの良い居室である。仏壇、若い時の自分の写真や孫の写真、タンス、人形等馴染みのものが持ち込まれている。ベッド、布団かは自由に選べる。ホーム長は、使い慣れた物を持ち込んでいただくことを勧めている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて、表示を大きくしたり、掲示場所を目線の位置に合わせる工夫をしている		